

日本学生選手権ならびに辞任のご報告

■日本学生選手権は近年最高の結果に

日本学生選手権（インカレ）が10月7日～10日、東京辰巳国際水泳場で開催されました。前年同様、コロナ禍での開催とあって、入場できるのは選手と限られた関係者のみ、声援は禁止、B決勝は得点換算のみでレースなし、と従来とは異なる大会運営となりました。まずは困難な状況下で、本大会を開催していただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

さて、すでにマネージャー日記等でご承知のとおり、本学の結果は、主将の森下（法4）が50自由形で10位、100自由形で7位、塩川（経4）が100背泳ぎで8位、200背泳ぎで6位、藤田（商4）が200背泳ぎで15位、男子400メドレーリレーが9位、男子400リレーが11位と、4年生の獅子奮迅の活躍で、男子総合12位（総得点73点）となり、近年では最高の結果を残すことができました。

中でも総合順位において、シード校の一角である法政大学を上回ったことは、特筆すべき快挙だと考えます。

8月下旬から約2週間、スイム練習ができなくなった逆境を乗り越え、部員たちは本当によく頑張ったと思います。

■すばらしい4年生たち

コロナウイルスは世界中の人々に耐え難い苦痛と悲しみを与えました。スポーツに打ち込む少年少女をはじめ学生アスリートたちも深刻な打撃を受けています。

8月下旬に本学の部員3名がコロナウイルスに感染しました。その結果、8月末に予定されていた関西学生夏季長水路公認記録会（プレインカレ）への出場辞退が余儀なくされました。今大会はインカレに出場できない4年生にとって、最後のレース、引退試合でした。

1週間後に迫った引退試合が突如、無くなったのです。

その無念さは筆舌に尽くし難く、続く言葉が見つかりません。

しかし、そのような状況下でも自暴自棄に陥った者や他者を責めた者は、一人もおりません。本音のところは違うかもしれませんが、皆、ぐっと堪えてくれました。

すごい学生たちです。

主務の林（人間福祉4）から届いた一連の報告メールで、涙腺が崩壊しました。個人の感情を一切出さない気丈な文章でした。

平常時なら出場できたはずのインカレ、でもそれがかなわず気持ちを切り替えて臨むはずだったプレインカレ。

林をはじめ複数の部員が受けた艱難辛苦を、弊部の先輩方には是非とも知ってほしいと思い、ご紹介しました。

今年のインカレで見せた上記4年生3名と400リレーに出場した勝見（人間福祉4）の力泳は、当然のことだったのかもしれませんが。

彼らは他の4年生や部員たちの思いをすべて背負って臨んだのです。

■感謝 19 年

突然のことで恐れ入りますが、私は今季のインカレをもって、競泳コーチとスタッフの役職をすべて辞任することになりました。ここにご報告申し上げます。

1996 年の千葉インカレで現役生活を終え、競泳界から離れました。

その後、故竹下裕之コーチのお導きにより、2003 年から再び大学水泳界に身を置くことになりました。

以来、今日までの 19 年間、多くのすばらしい学生たちと接する機会を拝命し、微力ながら歩を重ねてまいりました。

数ある中から関西学院大学を選んできた学生・部員の皆さん、彼らを送り出してくださったご家族の皆さん、各高校・スイミングスクールの指導者の皆さん、後輩のために人的・経済的支援をくださった北村会長をはじめ OB・OG の皆さん、選手のために身を粉に働いてくれた歴代マネージャーの皆さん、選手のケアに懸命にあたっていただいた島先生をはじめトレーナーの皆さん、スタッフとして尽力してくれた今井君、山縣君、木本君、部長として陰ながら多くのご指導・ご支援を頂戴した岡田先生、井上先生、その他多くの水泳関係者及び学院関係者の皆さん、そして何よりも、生意気な私の言動を寛大な心で受け止め、いつも泥をかぶってくださった「日本一速く泳げるかもしれない社労士」の内藤監督。

個別にお名前をあげていくと、一冊の本になりますのでこれ以上は控えますが、本当に多くの方々のお世話になりました。

ご厚情に深謝申し上げます。

「感謝し、満足しなければならない。しかし慣れてはいけない。」

部長の岡田太志先生がミーティングの度に部員たちにご紹介されている言葉です。

私はこの 19 年間、すばらしい学生たちと出会い、彼らから常に生きる力と喜びを与えていただきました。

その幸せな環境に、日々感謝する半面、いつの間にか満足し、すっかり慣れてしまいました。競技に携わる者としては失格です。

今年のインカレ最終日に、森下と塩川の決勝レースを見て、改めて痛感しました。

もう、十分です。

胸いっぱい、これ以上の感動は受け止めきれそうにありません。

このあたりが潮時と考え、今後はただの「今村さん」に戻らせていただき、皆様とともに現役生の活躍を見守っていきたくと存じます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。

引き続き現役生へのご指導・ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

長い間、本当にありがとうございました。

2021 年 10 月 11 日
関西学院大学水上競技部 競泳コーチ
今村真（1997 年経卒）